

結果に終つてあらう。

要するに本會の如きは、一時代後れの産物なりと評せざるを得ないものである。勞働者の權利思想未だ今の如く發達せられ、従つて貧民問題と勞働問題とは其間大差なかりし時代に於て、又は勞働問題は單に一國內の問題夫れ一國內の資本と勞働との問題に過ぎず、従つて一國內の政治、思想の大本を動かすに足らぬ、又國際關係に何等の影響を與ふに至らざりし時代は知られ、今日の活動を要すべしあまりに時代が進み過ぎて居るのである。協調會の仲裁によつておとなしく問題の解決を計らんとする前に、日本現在の勞働者は、平穩且つ公然に行ふ同盟罷工を以て、勞働者の權利と認めんことを要求して居る。彼等は協調會の説教によ

つて其意を啓かんとする前に、彼等自身の團結力によりて其地位の改善を計らんことを求めて居る。彼等の今求めつ、あるは、其地位の改善に當つては、他人の力に依るにあらざりて、自己の力に依らんとして居るのである。一一従つて所謂紛議の仲裁の如きは、權力強制力を伴はざる中間團體の行動か、果して幾許の實効を有するのであらうか。又若し過つて其仲裁が資本家に偏りたりとの疑惑を抱かざるに至ることあらんか、これ實に由々敷大事であつて、これこそ勞資協調のこゝろではなく、勞資の間に越中へからざる溝渠を作ることになるのである。

要之、今日に於ける協調會の成立は政府筋、資本家筋の舊弊なる思想の表現であつて、吾人は其結果に就